

(宛先)教育指導課長

学校名 _____ 白子小学校
学校長名 _____ 奥山 充人

校内研究実施計画書

1. 研究主題

「自他を認め合い、互いの思いを大切にできる子」

教科・領域 . . . 全教科・全領域

2. 主題設定の理由

本校は、学校教育目標に「わかる授業！友だちいっぱい！今日も来てよかったと思える白子小学校」を掲げ、授業を通して仲間と関わり合い、支え合える学習集団づくりを大きな柱の一つとして取り組んでいる。このため児童が、仲間との学び合いの中で、主体的・意欲的に学習に取り組み、「わかった」「できた」という達成感を味わうことができれば、「もっと知りたい」「できるようになりたい」という学習への関心・意欲が高まり、学力向上につながっていくと考えてきた。

本校の児童は、素直で明るく、のびのび育っている。学習面においては、与えられた課題に対して一生懸命に取り組むことができる子が多い。また、生活面においても、自分の仕事に責任をもって取り組める子が多く、自分のため、仲間のために行動できる子の姿も多く見られる。

このように、何事にも一生懸命に取り組む本校の児童であるが、難しい課題・問題と出あったときに、途中で考えるのをあきらめたり、自分の考えや思いをもつことができなかつたりする児童も見られた。また、自己肯定感が低い児童は「自分はみんなよりできない」「どうせ自分は・・・」「ほかの人より・・・だから」と自己を否定してしまう児童、他者理解力の低さ、コミュニケーション力の未熟さからトラブルに至る児童も見られた。

そこで、昨年度から「自他を認め合い、互いの思いを大切にできる子」と研究主題を置き、研究を進めてきた。これは、授業の中で児童が自分の考えと友達との共通点や相違点を見つけ、自他の考えの良さに気づくことで、新たな考えをもったり、自分の考え方を見直したりして、自分の考えをより明確にもつとともに他者理解を深めながら、いろいろな問題を自ら解決していく力を身につけさせたいと考えたからである。

昨年9月に人権意識アンケートを実施した。結果から見えてきたことは、「自分のことが好きですか」の問いに対して、成功体験がある子や自尊感情の高い子は肯定的に捉えられるが、否定的な子は他者比較により「自分のことを好きではない」という結果になってしまっている様子が見えかけた。また、「いじめや差別などの人権問題をなくすために、何ができるかはわかっているが、自分と関わりのある問題である。」と捉えた児童は43.7%で半数の児童が「自分とは関わりのある問題ではない(他人事)。」と捉えていた。「いじめや差別などの人権問題をなくすために、何かできることをしたい。」と85.8%の児童が思っているのに対

して、実際には自分事と捉えられていないことがわかった。こうしたことから、学校生活のあらゆる場面において他者に関心を持ち、互いを認め合いながら、他者とつながる力を育み、あらゆる人権問題を自分事としてとらえ、解決していこうと行動できる人権教育を基盤とした学習の一層の充実が必要であると考えた。

【人権意識アンケート結果】

質問① 自分のことが好きですか

	令和7年9月	令和8年2月	増減
肯定的(そう思う・ややそう思う)	67.3%	72%	△4.7%
否定的(あまり思わない・思わない)	21.3%	17.4%	▼3.9%
わからない	11.5%	10.4%	▼1.1%

質問②自分の考えや思いを伝えることができる

	令和7年9月	令和8年2月	増減
肯定的(そう思う・ややそう思う)	65.6%	77.3%	△11.7%
否定的(あまり思わない・思わない)	28.1%	17%	▼11.1%
わからない	6.3%	5.7%	▼0.6%

質問③友達の気持ちを考えて行動できる

	令和7年9月	令和8年2月	増減
肯定的(そう思う・ややそう思う)	81.9%	86.7%	△4.8%
否定的(あまり思わない・思わない)	11.2%	8.1%	▼3.1%
わからない	6.9%	5.1%	▼1.8%

4年以上の項目

質問④いじめや差別などの人権問題は、自分と関わりのある問題である

	令和7年9月	令和8年2月	増減
肯定的(そう思う・ややそう思う)	43.7%	60%	△16.3%
否定的(あまり思わない・思わない)	36.7%	24.5%	▼12.1%
わからない	17.5%	15.6%	▼1.9%

質問⑤いじめや差別などの人権問題をなくすために、何ができかわかっている

	令和7年9月	令和8年2月	増減
肯定的(そう思う・ややそう思う)	77.1%	83.6%	△6.5%
否定的(あまり思わない・思わない)	20.9%	16.5%	▼4.4%

質問⑥いじめや差別などの人権問題をなくすために、何かできることをしたい

	令和7年9月	令和8年2月	増減
肯定的(そう思う・ややそう思う)	85.8%	89.7%	△3.9%
否定的(あまり思わない・思わない)	6.3%	4.9%	▼1.4%
わからない	5.8%	5.3%	▼0.5%

3. 研究の基本的な考え方

〈仲間づくりを進めるための視点〉

- ①子どもをしっかり見て、こどもの話をしっかり聴く。
- ②見続ける子と周りが仲間としてつながるための手立てを仕組む。(教材・活動など具体的に)

③こどもの生活背景、思い、その子の行動の裏にあるものを掴む。保護者との連携も大切にする。

④個の力を高めることと、仲間づくりを両輪で進める。

⑤自分たちの学習が、自分と関わりのある問題であるということを教師側が伝えていく。

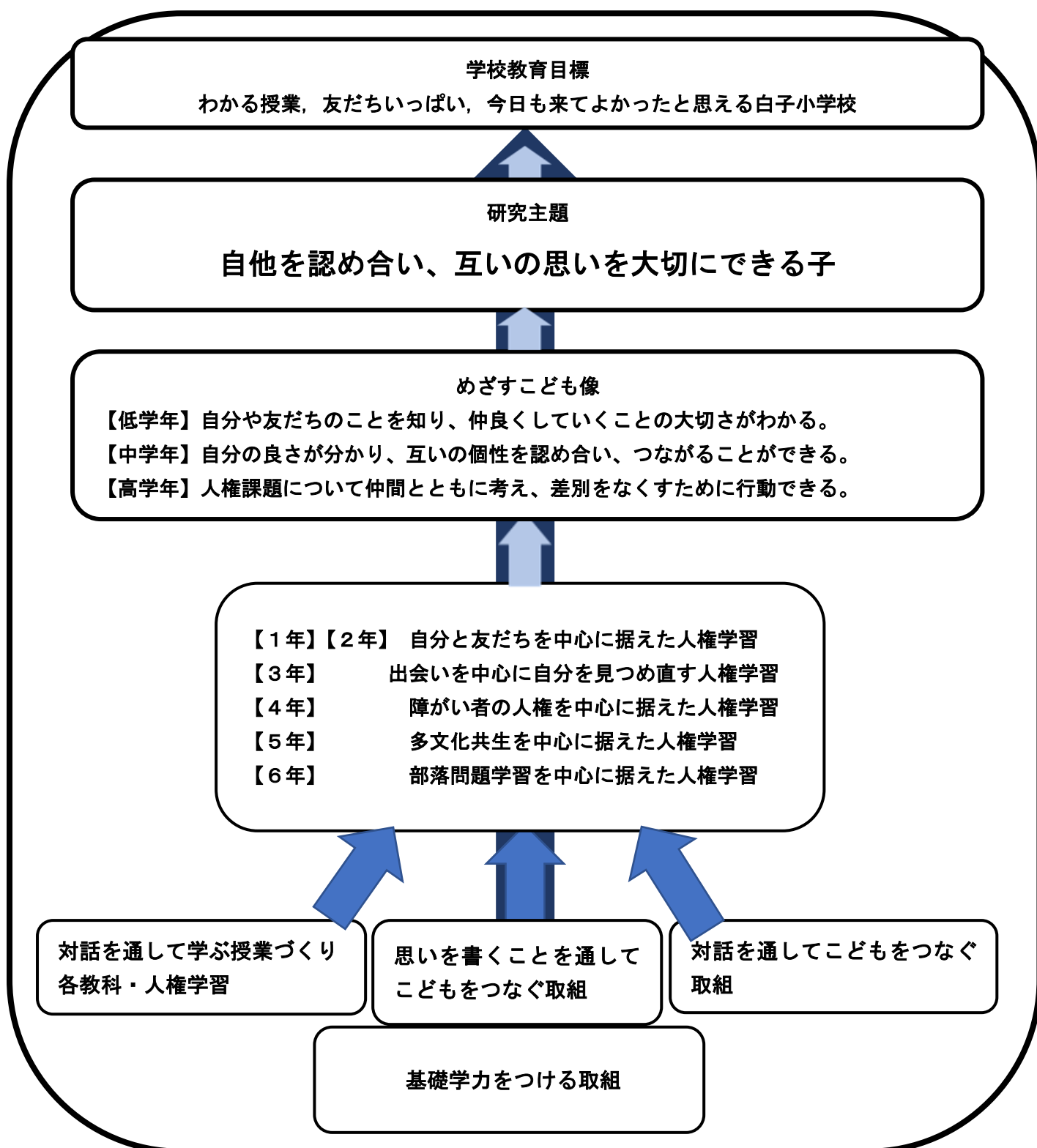
⑥教師が学級/学年/学校の中で捉えたおかしな発言や行動を見逃さない。

〈人権学習を進めるための視点〉

目の前にある人権課題を解決するための学習を進めるとともに、6年間を通して、様々な個別の人権課題について

理解を深め、解決するための実践力を身につけさせる学習を進める。

4. 研究構想図



5. 人権学習におけるめざすこども像

【低学年】自分や友だちのことを知り、仲良くしていくことの大切さがわかる。
 【中学年】自分の良さが分かり、互いの個性を認め合い、つながることができる。
 【高学年】人権課題について仲間とともに考え、差別をなくすために行動できる。

	【知識的側面】	【価値的態度的側面】	【技能的側面】	【仲間づくり】
低学年	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活や学校の中のルールを知る。 生命の大切さについて学び、家族の一員である自分に気づく。 自分や友だちの個性について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活の中で、自分や友だちのことを大切にする。 友だちの思いや願いを理解しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや願いを言葉や体で表現することができる。 友だちや家族とつながることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 悩みや困り感等を自分なりに表現し、周囲がそれらを受け止め、解決に向けて協力して行動することができる。〈子どもの権利の尊重〉
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中にある人権課題について正しい知識をもつ。 自分と周りの人との違いやその良さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いに信頼し、協力し合う態度を育てる。 たくさんの出会いを通して、先人が大切にしてきた思いや願いに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の立場に立って考え、寄り添おうとすることができる。 	
5年生	<ul style="list-style-type: none"> 異なる習慣や文化を持った人々の多様性を受け入れ、すべての人の人権を尊重することの大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りにある人権課題に気づき、多様性を認め、助け合おうしながら、主体的に解決しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の思いや考えを受け止め、寄り添おうとすることができる。 差別や偏見に気づき、その問題を解決しようとして行動することができる。 	
6年生	<ul style="list-style-type: none"> 部落問題をはじめ、さまざまな人権課題について正しい認識を持ち、すべての人の基本的人権を尊重することの大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめや差別、人権侵害の不合理さや、差別をなくす取組との出会いを通して、主体的に差別等の問題を解決しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 差別や偏見に気づき、その問題を解決しようとして行動することができる。 友達やほかの人と対等で豊かな人間関係を築こうとすることができる。 	

6. 具体的な方策

めざす子ども像に迫るために以下の手立てを用いていく。

1. 対話（話す、聴く）を通して学ぶ授業づくり（各教科・人権学習）を行う。
2. 対話（話す、聴く）を通してこどもと「もの」「他者」をつなぐ取組を行う。
3. 思いを書く・伝える取組を行う。
4. 基礎学力をつける取組を行う。

【対話】とは、「相互理解をしていくためのコミュニケーション」ととらえる。

【聴く】とは、「進んで耳を傾けること」ととらえる。

1. 対話（話す、聴く）を通して学ぶ授業づくり（各教科・人権学習）を行う。

①学習活動の中に伝え合う場面（個人で考える→ペア・グループ→全体）を設定する。

- ・考えがはっきりもてない場合に、「…が分からない」「ここまで分かったけど…」「どう考えたの？」が言える学級づくりを進める。
- ・話す友だちの方を見て、うなずいたり、「なるほど」「そうそう、わたしも同じ」など、反応したりしながら聞くことを大切にする。

②自己内対話（自分の考え）を意識させる。

自分の頭の中で自分自身と交わすコミュニケーションを整理する。課題に対して自分の考えや葛藤、疑問に向き合い、自己決定していく力を育てるものであり、学習の中で振り返りの時間を活用するなどして時間の確保をする。

③めあて

授業における教師側から捉えた目標やねらい（どのような力を身に付けさせたいか）を達成させるために、児童自身が内発的動機づけにより「今日は何を考えるのか」「何ができたらよいのか」を意識するためのもの。問題を理解させた後、既習と未習の違いや思考のズレに着目させるなどして、児童からひきだしたり、指導者が提示したりして設定する。主体的・意欲的に学習を進めるための不可欠なツールである。

④学びが深まる手だてを工夫する。

- ・身近な問題や例を取り入れる。
- ・ICTを活用する。
- ・困り感のある児童への指導の手だてを工夫し、全体指導に広げる。

⑤学びが深まる、対話を深めるための座席配置を考える。

- ・一斉型 ・コの字型 ・口の字型 ・半円型 ・前後左右2分割型

⑥まとめ

教師がその授業でねらっている身につけさせたいことや指導事項を確認すること。具体的な問題

の解決を通して、児童自身が「何が分かったのか」「何ができたのか」「何が身についたのか」をまとめるようにする。板書にはキーワードとなるような言葉を残す。

⑦ 振り返り

めあてと正対した振り返りとなるとよい。内容面でのまとめを踏まえ、1時間の自分の学びについて児童自身が「どう学んだのか」「どうして解決できたのか(できなかったのか)」「友だちどうしの学び合いはうまくできたか」「今までに学んだことと照らし合わせて学びが深まったか」など自分自身の「めあて達成度」「学習の理解度」「がんばったこと」等を振り返る。

【板書の色分け】

めあて・・・青で囲む。

振り返りやまとめ・・・赤で囲む。

大切にしたい言葉や文・・・黄色や黄囲み

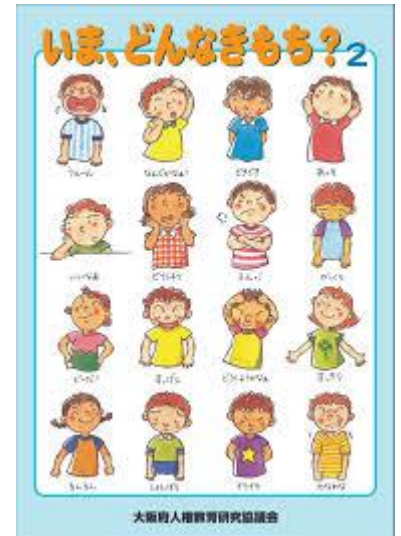
2. 対話（話す、聴く）を通してこどもと「もの」「他者」をつなぐ取組を行う。

- ・こどもと様々な「もの」「他者」をつなげるための交流の機会を設ける。
- ・頑張ったこと、成長したことを認め価値づけをする。
- ・一人ひとりのこどもの考えや意見を尊重する態度を育む。
- ・自己肯定感を高める取組を進める。
- ・互いの良いところだけでなく「その人らしさ」を知り合い、新たな発見や気づきを得ることができる取組を進める。
- ・行事や自分たちの課題に力を合わせて乗り越える体験を積み重ねて、協力(協働)することの良さを味わい、主体的に協力(協働)する意欲や実践力を高める。

3. 思いを書く・伝える取組を行う。

感情にはポジティブな感情とネガティブな感情があることを知り、自分の思いや考えを、伝えられるようにする。また様々な場面において相手の思いや考えを聴くと同時に、自分の思いや考えを伝えるスキルを身につけさせる。

【大阪府人権教育研究協議会 ポスターを活用】



②思いや考えを書かせるタイミングを工夫する。

- ・各教科学習の中で常に教師が意識し、取り組ませる。
- ・行事(共通体験)・クラスでの出来事・道徳との関連で・今書きたいこと・フリーに書かせる。

③意図をもって書かせる。

- ・心が動いた(自分の気持ち・心の声)
- ・場面を切り取って書く。
- ・焦点を絞って書く。
- ・会話のやりとり
- ・表情

④書くことに困り感のある児童には対話しながら書く。

- ・対話を大切にしていく。
- ・教師との対話の中で教師がメモをとる。→本人が言葉をつないでいく。
- ・簡単な書く型を示す。

⑤読み合う機会を通して、仲間のことを知る。

- ・本人が、もしくは担任が読む。仲間のことを知る機会につなげる。
- ・自分の身の回りの出来事について考えるきっかけ作りにする。
- ・学級通信・学年通信で保護者へ発信する。

4. 基礎学力をつける取組を行う。

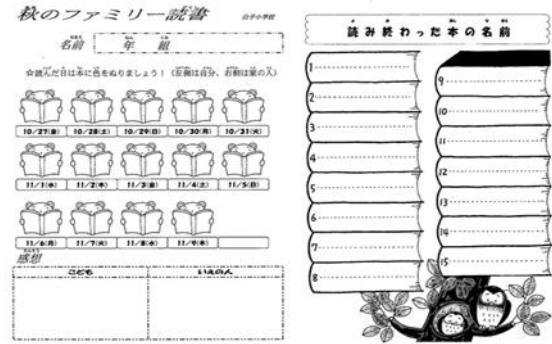
①授業力 UP5★ver.2 を意識した授業づくり

めあて→学習活動→端末活用→振り返り



②読書活動の充実

- ① 読書の記録
- ② 夏冬休みの読書カード
- ③ 読書ビンゴ
- ④ 秋のファミリー読書
- ⑤ 巡回指導員との連携(ブックトーク)
- ⑥ お話宅配便(教師の読み聞かせ)
- ⑦ ブックック(読み聞かせボランティア)



③家庭学習

- ・家庭学習の手引きを作り、保護者に向けて啓発する。(学級懇談会で配布)
 - ・宿題の基本 → 音読・漢字・計算(・復習プリント)
- 時間の目安 10分×学年

④サマースクール(夏休み補充学習)

- ・3日間程度 補充学習が必要な児童が参加

○その他

- ①学調・みえ SC への取組(直前の対策)
- ②学調・みえ SC 結果分析と改善策の検討
- ③朝の学習
- ④学習ボランティア活用
 - 学習支援(支援・〇付け・読み聞かせ・校区案内)
 - 技能補助(ミシン・裁縫・調理実習・工作補助・書道補助)
- ⑤情報活用能力の育成
 - (1)ICT を活用した授業推進
(ICT サポーターと連携して取り組む。)
 - ・効果的・効率的な指導のための ICT 活用
 - ・児童の言語活動の充実のための ICT 活用
 - (2)プログラミング教育の推進
 - (3)定期的なミニ研修会
 - (4)日常的なタイピングスキル向上の取組

7. 全体研修会について

- ・全体研究授業は、とびうお1本、人権3本の計4本。(学年部研も人権で行う。)
- ※R8年度は学年部研の中の1本は1学期に全体研扱いで実施。
- ・授業は45分間を原則とする。
- ・指導主事を招聘する。
- ・提案授業実施日までに、指導案を学年部で検討する。検討した指導案を、遅くとも2日前には、全員に配布する。とびうお(教育指導課)、人権(教育支援課)には、1週間前までには送付する。
- ・学年の事前授業についても全体に連絡し、可能な限り参観するようにする。
- ・事後研修会を行い、児童の様子を通して、研究協議し手立ての検証をする。

8. ミニ研修会について (ICTも含む)

- ・指導のワザ・コツを互いに交流し合い、指導力・授業力の向上を目指す。
 - ・30分程度とし、参加は希望者
- 例:教材分析の仕方
- ICTを活用した授業実践
 - 音読の工夫の仕方 など 研修内容の希望があれば研修部まで

9. 研修組織 研修委員仕事分担

		仕事内容	担当	
研修部会	人権教育	人権授業研究	人権授業推進・研修会・講師派遣日程調整・講師派遣依頼	宮崎
		鼓中校区人権人権フォーラム	鼓中校区との連携 人権フォーラム	芳田
		鈴同教	鈴同教委員会・「せいかつ」レポート	福原
		レポート研修	見続ける子	芦田
生活指導部会	学力向上	学力調査 スタディ・チェック	採点担当割り振り・結果の分析 個人結果印刷	藤原 宮崎
		授業力の向上 日常的な取り組み	モジュール学習・家庭学習・教科の授業力向上・ノート指導 学習掲示物の使い方	藤原 宮崎 芦田
生活指導部会	学習指導	教室掲示 サマースクール	はなし名人・聞き名人・声のものさし サマースクール・番号札・学習掲示物 (め・ま・ふ)	芦田
		人権関係作品・夏休み作品とりまとめ	人権作文・人権ポスター・夏休み作品募集	大島 佐藤
		学習ボランティア	学習ボランティアとの連絡調整	山本
		読書・図書館指導 ブックック・巡回指導員	朝の読書・図書館指導 図書ボランティア(ブックック)・巡回指導員連絡調整	柳瀬 山本
生活指導部会	特別支援教育	特別支援教育推進	特別支援教育研修 インクルーシブ教育	後藤 佐藤
		通級	通級教室	佐藤
生活指導部会	多文化共生教育	日本語教育	日本語教室 多文化共生教育推進・掲示板活用	荻田 大島
		情報教育	ネットモラル教育 ICT教育 キャリア教育	クローズドブックの使い方・ICT教育推進 学力調査・スタディチェック キャリアパスポート

低学年部会

中学年部会

高学年部会

10. 2026年度研修計画

学期	研 修 内 容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回全体研修会 「教育的に不利な環境の中にあるこども」 Aを核にした「仲間づくり」 「レポートから学ぶ」 ・ 第2回全体研修会 研究主題・研究内容・研究組織・研修計画 「人権カリキュラム検討」 ・ とびうお学級児童紹介・とびうお学級授業研究 ・ 「見続ける子」レポート研修 ・ 特別支援教育研修 ・ ICT研修 ・ 学年部研（全体研扱い）授業研究（1本）
夏休み	<ul style="list-style-type: none"> ・ サマースクール ・ 学調みえスタ分析 ・ 教育講演会 ・ 教研集会
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年部研 授業研究（2本） ・ 11月20日 北勢同研（3本）
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2026年度の反省・成果と課題 ・ 「人権カリキュラム」共有 ・ 2027年度の方角性 ・ 研修収録とじ

〈その他にも・・・〉

※学年部公開授業の積極的な参観。

※授業公開週間・ミニ研修を行う。

※「人権研修講座」など教育委員会主催の研修会などへの積極的な参加